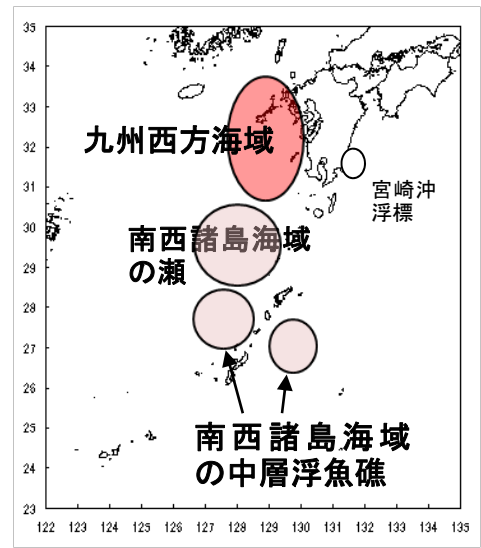
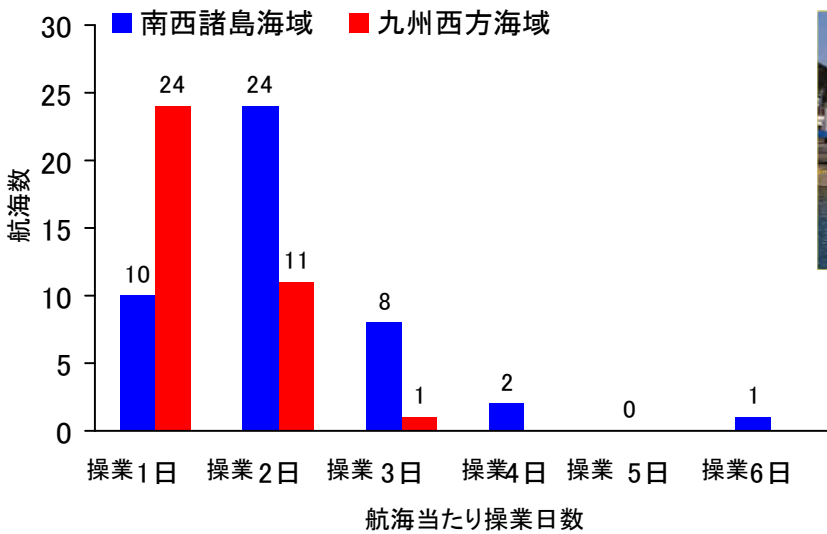


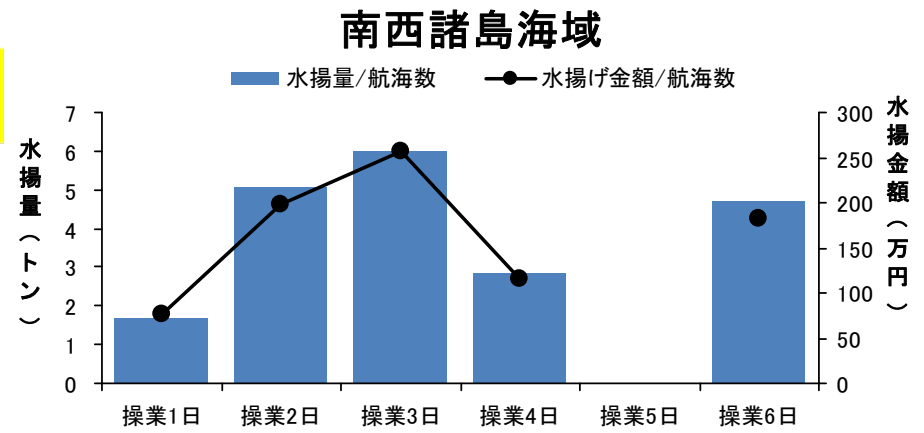
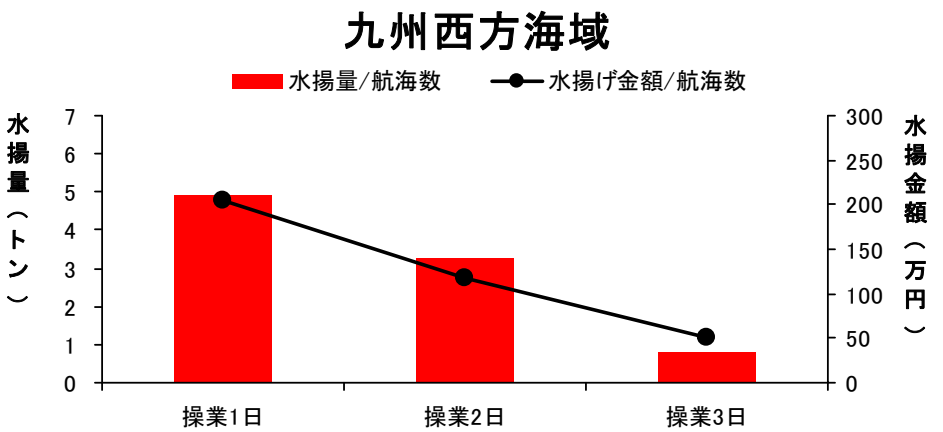
9 システム対応型:近海かつお釣

南西諸島及び九州西方海域における19トン型近海かつお一本釣り漁船の適正な操業形態の開発

1. 効率的な操業パターンの開発



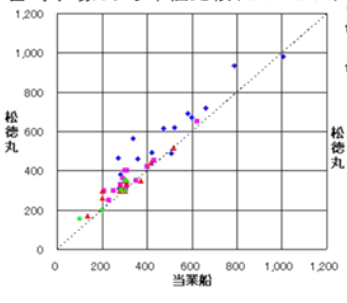
南西諸島海域: 2日の操業⇒24回 (53%), 平均操業日数: 2.1日
九州西方海域: 1日の操業⇒24回 (66%), 平均操業日数: 1.3日



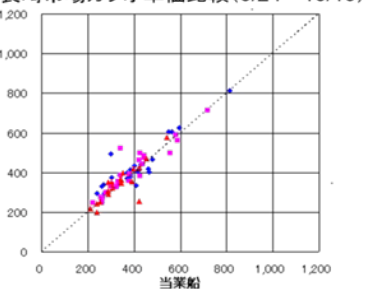
2. 短期航海によるカツオの市場評価

製品分析については、長崎大学、長崎県水産総合試験場と共同で分析中

宮崎市場カツオ単価比較(4/1~3/31)



長崎市場カツオ単価比較(6/24~10/15)



同じ日に水揚げされた製品よりも高値

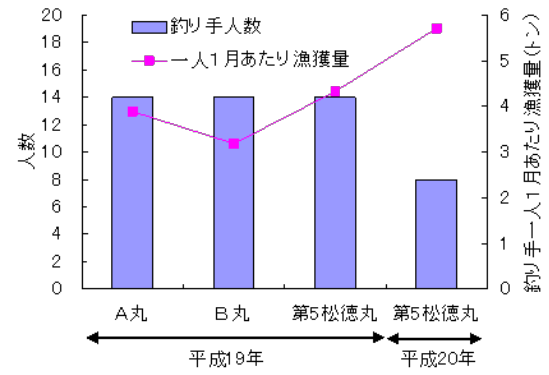


当日分(新口)の方が前日物(沖止)よりも高価(長崎市場)
(九州西方海域で2日間操業の場合)

3. 1人当たりの漁獲量

第五松徳丸:5.7トン
当業船(94トン型):3.2トン~4.3トン

単価 380円:	1,482千円	1,216千円	1,634千円	2,166千円
単価 319円:	1,244千円	1,021千円	1,372千円	1,818千円
漁獲量:	3.9	3.2	4.3	5.7



小型の方が効率操業が可能

4. 諸経費

➢ 収入

• 水揚げ金額⇒85%(旧松徳丸94トン型との比較)

➢ 支出

- 燃油消費量⇒55%(旧松徳丸との比較)
 - 雇用労賃⇒59%
 - 餌代⇒67%
- } 当業船(4隻平均)との比較



九州周辺海域では、19トン船型での短期航海による操業は、人件費や燃油経費の諸経費を削減しつつ、カツオを高価格で販売することにより、高い収益性を確保することが可能。